

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度 第7回春日区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 協議事項（公開）

- ① 地域活動支援事業の審査の振り返り
- ② 自主的審議について
  - 1) 前期委員による自主的審議について
  - 2) 今後の進め方について

## 3 開催日時

令和3年7月27日（火）午後6時45分から午後9時20分まで

## 4 開催場所

市民プラザ 第3会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：阿部一博、石田秀雄、市川 優、太田一巳（会長）、岡本重孝、齊藤洋一、白濱昭博、田中裕子（副会長）、谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）、吉田義昭、鷺澤和省、渡邊康子、渡部忠行（欠席2人）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

- ・挨拶

【藤井係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：渡部委員に依頼

次第3 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の審査の振り返り」に入る。  
事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料1、資料2-1・2-2を用いて説明
- ・今年度の審査の振り返りを依頼

【太田会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

本日この場で決定するわけではないのだが、今年度の審査・採択を通して、また資料を見た中で気が付いたところ、検討が必要な個所等について、委員の発言を求めたいと思う。本日は結論が出なかったとしても、次年度の採択方針の検討の際の参考としたいと思う。

【渡部委員】

資料2-2の申し合わせ事項についてである。

例えば、私は上越交通安全協会春日支部の支部長であるため、当該団体の提案の採決に参加しないことを最初から宣言していたのだが、一方で、私は春日地区町内会長連絡協議会長の推薦で委員になっており、交通安全協会から出ているわけではないと考えれば、採決に参加できるというのも正解だと思う。

最もおかしいと思っているのは、提案する作業に関わった人が地域協議会委員として採点を行った場合には、その人は付度というか、ほぼ満点で採点すると考えられるためである。

従って、「今までのように全くそういう制限をかけない」か、あるいは「制限をかける場合には、提案書を作成する立場にある人は採点・審査を降りるべき」であると思

う。

先日、市民大学 OB 会の時にいろいろと聞いたら、全員に採決への参加を認めている協議会とそうでない協議会があって、そうでないところは、提案書を作る立場の人は当然採決には参加しない。「自分で作った事業を自分で採点するなんて考えられない」「春日はそんなことをやっているのか」と言われ、恥ずかしい思いをした。

申し合わせ事項について最初に採決したときに、「今までどおり」と「制限をつける」の二択では「今までどおり」が僅差で少なかった。「制限をつける」となったならば、制限するということが何であるのかということ、我々はもっと理解しなければならぬ。「制限をつける」ならば、提案書を提出する立場の人は、やはり採点するのはまづいのではないかと思う。もう 1 回みんなで議論すべきだと思う。

#### 【太田会長】

今の発言に対してというか、他にも意見があれば、発言願う。

採点についてはいろいろな議論があったと思う。かなりの時間をかけ、春日区ではどのように決めるのかについて検討したと思う。地域協議会制度ができて、今回で 4 期目になるが、委員の中での制限をかけたのは今期が初めてだったと聞いている。

委員は皆何らかの団体の代表ではなく、春日区の住民として、春日区の代表として、自分で手を挙げてきているところであるため、審査に当たっては春日区としての目線で見ましようということで、全員が審査に参加するというのも 1 つの正解である。

他の地区を見ると、提案団体の代表である、主に 3 役といわれる役職の人に制限をかけている区もあると示し、委員も承知していたかと思う。また、他の区に関しては、その区によって区にあった要件・ルールを作っていたところがあるので、これはどれが正解というところはないのかと思う。

このように思うため、先ほど渡部委員が「恥ずかしい思いをした」との言い方をしたのだが、それは春日区地域協議会として話し合い、納得をしたところで今年度の審査・採決の条件として決めたものであり、恥ずかしい思いをしたということはないかと個人的には思う。今年はこのように行ってみて、不具合が出てきたところがあれば、また来年度のルールを作る際にやり方を戻して、全員が審査に参加するとしてはどうか。

#### 【渡部委員】

確かに正論は誰に何を言われても正論であるが、一般社会の常識として、提案書を

作った本人が、自分のところで作成した計画を減点するわけではない。

そういったことにならないよう、対象から外せばよいだけで、外すのは会長・副会長・会計だけじゃなく、役員や関わった人が皆降りればよい。

#### 【岡本委員】

渡部委員が発言したことについてである。

7月20日の新潟日報に、他の地域協議会委員からの意見として、全く同じ内容が記載されていた。「応募団体のメンバーが地域協議会の委員を務めている区もあり、大潟区地域協議会の委員を務める五十嵐さんは『審査の公平性が保たれていないと感じる事例がある。地域の活性化に役立つ視点で審査できているかも疑問だ』と指摘した。」と記載されている。

自分も以前意見したことがあるのだが、地域協議会委員になって最初にこの取扱いについて知ったときは非常に驚いた。例えば、会社が株式を上場する際に、情報を持っている人がメンバー内にいた場合、その人が株を買うとインサイダー取引になる。基本は公開の会議であり問題はないのかもしれないが、委員が提案団体にいた場合、分科会に分かれて審議しているような機微まですべて伝わってしまう。それが1点。

また、自分たちの提案の採点や減額等にも関わっているということが、自分は初めてである。そのため非常に驚いた。渡部委員の意見は非常に理解できる。

前回の地域協議会にて、細かく議論をして採決したのだが、やはり内容に関しては個人的には納得していない。やはり変だと思う。

どこの地区の地域協議会でもあることであれば、「そういうものか」と思うのだが、新聞にも掲載されているほどであるため、やはり記者としても奇異に感じて記事にしたのだと思う。

#### 【本多委員】

多分、この話が出た理由としては、前期の地域協議会で一部の団体の関係者が地域協議会委員に多数入っており、そこが主導して決まってしまったとの話を聞いたことがある。そういったことが発生したためこのような問題が出たと思う。各委員が地域協議会委員になった際、どのような考えできたのかということである。

自分は以前に町内会長を4年間務めていたため、地域協議会のことをある程度は理解していたと思う。自分の町内では、会長が終わると自動的に「次は誰」と決まっている。その時に、これは主観を入れないようにやらなければならないと思った。出た

ものに対して客観的に見て、当然、関係者がいれば付度があると思うのだが、自分はあまり好きではない。

やはり自分は補助事業の審査を行う地域協議会委員であるため、物事をできるだけ客観的に見て判断する必要があると思う。そのような考えを持って地域協議会委員を務めているつもりである。

また、いくつか意見が出たように、提案に関わった委員はできるだけ審査・採択に関わらないようにしたほうがよいかとも思う。

また、賛否を問えば、自分の主張が通らないこともある。採決したら、決まったことに対して全員で同じ方向性で見ていかなければだめだと思っている。それでなければ、ここで意見をしても決まらない。全員が同じ意見になるわけがなく、いろいろな見方や考え方がある。

最低でも、提案者は審査・採択から外れることがよいと思う。

もう1点。自分が地域協議会委員であったら、提案には携わらないといった考えを持たなければならないと思う。少なくとも地域協議会にいる間は、自分が提案者にならないようにすべきではないかと考えている。自分はできるだけ公平性をもって物事を客観的に見るようにしている。

#### 【太田会長】

他の区については、第5回の地域協議会で28区の審査方法についての資料が配布されていると思う。28区の中で「全員参加」「代表者が外れる」「代表者等、複数の役員・会長・副会長・利害関係者、また自己申告した委員は外れる」等、各区によってやり方が異なっていたかと思う。そのため、春日区の皆が納得できるようなやり方・ルール作りについて、次年度の募集要項を決定する前に検討していかなければならないかと思っている。

話は変わるのだが、すでに今回の採択結果が上越広報や市のホームページ等、いろいろなところで少しずつ春日区の中でも広まってきているかと思う。今回の採択状況を見て、地域住民より何かしら声を聞くことができた委員はいるか。何か聞いている委員の発言を求める。

#### 【石田委員】

自分の思いとしては新潟日報に記載されているとおりである。

以前から疑問に思っており、問題提起する。そして、結果を出してもらいたいと思

っている。

全部とは言えないのだが、今年度は24件の提案があり、その中をよく調べると、毎年同じ団体が提案しているように思う。「地域活動支援」といっても、その人たちありきの支援事業ではないかと思うほどである。それは新聞にも記載されている。「地域活動の下支えとなっている一方で、特定の団体が毎年採決されたり、新規団体が対象とならなかつたりするケースも見られ、不公平感も出ている」とある。自分はその通りのことを新聞が書いてくれたと思っている。これをもう少し真剣に議論して、税金の使い方をもう少し真剣に考えてもらいたいと思う。あまりにも不自然である。

自分は地域協議会委員になって2年目であるが、こういったことが長年通ってきたことが信じられない。率直な意見として、もう少し見直してほしいと思っている。

#### 【太田会長】

今ほどの石田委員の発言は、地域の声ではなく、自身の意見ということか。

#### 【石田委員】

自分の意見である。新聞記事となっているため、自分だけではなく、皆が思っているということである。

#### 【渡部委員】

細かいことであるが、とあるスポーツ団体より聞いた話である。

「遠征費は半分」といった不文律ではないが、内規的なものをスポーツ団体等に周知しているのか。「遠征費」「交通費」等はすべて「半分」ということが、これまでの慣習だったように思うのだが、それを知っており、多くの遠征費を申請した団体は多くの補助金を得ている。

多くのスポーツ団体があり、個人的にはスポーツ団体に支援することは決して悪いことではないと思っている。だが、自分の近くの人から言われたこととして、「春日野少年野球」が9万3,000円、「春日山モルツ」は98万円の補助を希望しており、金額的に約10倍である。10倍の差がある提案を地域協議会委員はどのように判断したのか聞かれた際に、なかなか答えられなかった。

もちろん、自分は「交通費半分」とは口が裂けても言わなかったのだが、やはりそういうことを周知されていれば、皆が交通費を提案してくるかもしれない。その辺りがよく分からなかった。

ただ言われたこととして、スポーツ団体からの9万3,000円と98万円との大きな

差がある提案を、地域協議会委員は中身をしっかりと把握しているのかといったことを言われた。そのように言われて少し違和感があった。

#### 【吉田 実副会長】

自分は地域協議会 4 期目の古株であるため、他の区の特徴的というか、悪い事例のようなことについて補足する。

とある区では、町内会の出身者が委員の大半を占めており、町内会側が提案する事業についてはすべて採択されてしまうと、事実なのかは分からないのだが噂で聞いている。それに比べて春日区は、どの提案団体に対しても独立していたと思う。これは 1 期目と 2 期目の話である。

例えば、町内会から春日山城跡の史跡保存整備で、ほとんど使われていない道をチップ舗装するとの提案があり、地域協議会としては「不要」と判断して町内会側と対立した。地域協議会自体を認めていない考えの町内会長もいたため、論争となった。それくらい、提案団体と春日区地域協議会は完全に独立した審査をやっていたとの自負はある。

ただし、3 期目はある団体の元役員等が地域協議会委員として 5 人入っていた。そのため、3 期目は多少、公平性が欠けたかもしれない。

だが、本当に各委員が独立したかたちで審査を行ってきたと自分は自負している。

逆に今期の委員の中には、その団体の関係者は少なく、事務局が分析した結果によれば、ある委員が特定の提案に対して偏った採点を行ったとしても、大きく影響しないとの話があったかと思う。

渡部委員の発言にあったように、提案団体の構成メンバーである役員等にも制限をかけるのであれば、もう少し具体的な制限のかけ方をよく審議して、次年度のルール決めを行っていけばよいかと思う。

次に、交通費についてである。

先ほど話のあった「春日山モルツ」について、強いチームは県内の数多くのチームや大会に招待される。そのため、遠征費が多くウェイトを占めている。また、上越市内のみで動いている団体はあまり交通費がかからない。そういった提案団体の実情を各委員がよく理解して、審査していかなければならないと思う。自分は提案された各事業を理解しようと努力はしているつもりである。

大切なことは、皆、利益やお金儲けを目的にしているわけではない。ほとんどがボ

ランティアであり、スポーツ団体の監督は皆無償でやっている。税金の無駄遣いとの観点ばかりではなく、そういった人たちへの「よくやっている」との敬意をしっかりと持って審査をしてほしいと思う。

以前の会議で、「いきいき春日野」に対する批判があったが、上越地域の中で考えると先進的な取り組みだと思う。だが財源がない。そのため、地域活動支援事業の支援を受けながら活動してきている。春日区ばかりではなく、他の地域でも見習わなければならない素晴らしい活動をしている。そういったことをしっかりと理解して審査をしてほしいと思っている。

#### 【太田会長】

事務局にお願いである。

本日各委員より、いろいろな意見や考え方が出ている。自分は進行もしているため、まとめきれない部分がある。本日は結論までは出せないと思うため、箇条書きでまとめてほしい。

後日、来年度に向けた議論をしていかなければならないかと思う。また時間を作らなければならないと思う。本日はフリーで、いろいろな考え方や、今年度の問題提起をしていただいた。それらをまとめて、次年度に向けての時間も作らなければならないと思っている。

#### 【渡部委員】

先ほど自分が発言した内容について、もう少しいろいろな意見を聞きたい。岡本委員は自分の意見に賛同していただけたのだが、2人では心もとない。

古い話で申し訳ないのだが、「今までどおり」がよいか、「制限をかける」がよいかで採決を行った。結果としては僅差で「今までどおり」が少なかった。そして次に「制限をかける」という中で採決したら、「今までどおり」でよいと思っている人は、できるだけ見直しの幅が少ないところに挙手する。自分もここで少しくレームを言ったのだが、まったく受け取ってもらえなかった。

要はやはり、「今までどおり」がよいと思っている人からは下りてもらって採決しなければ、皆「今までどおり」がよいと思っている人が、見直しが少ないところに挙手するわけである。

こういうことがあってよいのかと思っており、事務局がどう思うのかを聞きたい。

#### 【石田委員】



皆から聞けばよい。

**【太田会長】**

渡部委員の発言は、今年度、「会長・副会長・会計」は審査・採択から除外すると制限をかけたことに対して、他の委員の意見を聞きたいということである。

**【阿部委員】**

自分は渡部委員の意見に賛成である。地域協議会委員が関係者だった場合、該当する事業には最初から「紐」が付いていることになる。審査・採択に関わってしまったのは、やはり不公平であり、それではいけないと思う。

**【吉田 義昭委員】**

今は、資料 2-2 の「3 申し合わせ事項」の内容について発言しているのか。

**【太田会長】**

各委員がどのように考えているのかということである。

**【阿部委員】**

今年度の審査・採択については、多数決により審査方法が決まったのだが、次年度に向けて、もう 1 回考えてほしい。どのように思っているのかを確認していると思う。

解釈の仕方が間違っている委員もいるかもしれない。逆に自分の考えが間違っているかもしれない。そのため確認している。

**【石田委員】**

自分も、関係している委員及び会長は、当然、審査・採点に加えるべきではないと考えている。

確認であるが、不参加と考えるのは携わっている団体に対してのみであり、他の団体については参加でよい。基本的には、阿部委員が発言したように、どうしても「ひも付き」になるため、そういう誤解も受けないように、委員自身が関わる団体の採決には参加しないというのが自然ではないかと思う。

**【市川委員】**

自分は非常に微妙な立場にいるため、「やじろべえ」ではないが、今のところ、どちらに転んでよいのか分からない状況である。

第 5 回地域協議会で配布された参考資料で、28 地域協議会の審査方法を見ると、提案者が協議会委員であった場合の対応はだいたい半々である。約半分の 15 区では「全員参加」、残りの 13 区では 1 人または複数の委員が「不参加」である。

これについては、今ここで結論等を出すには非常に時間がかかると思う。自分はどちらかというとなり委員の意見に傾いているのだが、町内会長の立場もあるため、非常に微妙なさじ加減というか、そういった立場にいることを理解してほしいと思う。

また、事務局にお願いである。これは春日区だけの問題ではないと思っている。新聞に記事が出ている問題であるため、事務局長会議のようなものがあれば、全市一斉でどうするのかを考えて決めたほうがよいと思う。こういった問題は春日区だけかもしれないが、自分は他の区でも話を聞いている。1番大切な問題であるため時間をかけることはよいのだが、もう少し上のほうで決めたものを地域協議会に降ろし、それを揉むといったシステムが必要ではないかと思う。

現在、自分的には「5対5」または「6対4」程度で、なり委員の意見に賛成しているのだが、何回も言うように、町内会長の立場でいうと、指摘されている「団体役員」に入ってくる。また、意見の出ている「ひも付き」の役員もかなりある。どこで線引きしてよいのか現状では分からない。

#### 【岡本委員】

原則でいうと、自分は提案団体に関係する人は地域協議会委員になるべきではない、もしくは、地域協議会委員は提案団体の役員、並びに運営者に名を連ねるべきではないと思っている。

先般、吉田副会長が「ボランティア的な立場で参加している」と発言していたが、ボランティアであれば他にも団体の役員が多くいるため、他の役員に任せればよいことではないかと思う。

例えば、地域協議会委員が今回不採択となった「歌声列車」に参加した場合、やはり利益云々と言われても仕方がないと思う。そういった公益的なものではなく、私的なものに対して関わっていくわけであるため、勘違いをされても仕方がないと思う。

そのため原則として、三役だけではなく、提案団体に携わっている委員は審査・採択には関わらないほうがよいと思う。

#### 【齊藤委員】

「春-14」の事業を提案した春日商工振興会の代表を務めているため、ここで発言する立場ではないと思って聞いていた。

ただ、今までの地域協議会の活動の中では、客観性を持って対処してきたつもりである。

## 【白濱委員】

昨年度と今年度の採択の結果を見比べ、まったく違う結果であったと思う。採決の結果をみると、昨年ギリギリで採択された事業は、本年は採択されなかった。中身的な話としてはよい方向にいつていると感じているため、普段はあまり発言していない。

そのうえでの話になるのだが、どこかで線引きをしなければならないという中で、事務局が全区の審査方法を調べた結果からは、やはり各区の特性があると思った。そういった中で最終的に「三役」で線引きすることも一つの方法かと思い、自分も手を挙げた。

さらに、採決については、自分が三役の立場であれば採決を辞退するという方法もあるのではないかと。

今回の春日区のやり方について、今後もこのとおりでよいのではないかと。

## 【谷委員】

自分が思うには、今審議していることは、基本的なところを忘れていないかと思っている。

「地域活動支援事業」ということで、この活動があるわけである。事務局も、中部・南部・北部まちづくりセンターと、まちづくりの名前を冠している。地域をよくしようということが始まっている活動だが、地域協議会委員が提案内容をよく理解していない、知ろうとしていない。中身をもっとよく見て判断することも大事だと思う。

提案事業の採点に参加する・しないは別として、地域協議会委員に就任した際のメッセージで、「地域活性化に努力したい」「目指したい」と書いた委員が9人いた。初心に戻り、やはり地域をよく見て、出てきた疑問について審議することはよいと思うのだが、要は「地域活動支援事業」の内容をよく理解する必要があると思う。

それが今後、活動として伸びていくのか・いかないのか、1回～2回で事業が終了しているのかといったことも含めて、活動を地域に広めることは、地域協議会委員の責任でもあると思う。そういったものをどのように理解して育てていくのかということである。

そのため、補助金を審査する側の上から目線ではなく、地域の提案を育てる・地域活動を目指している団体に対して、どのように支援していくかという原点を、もう少しよく考えてほしいと思う。

## 【藤田委員】

今回、自分は 253 万 8,000 円を配分残額としたことに対して、後ろめたく感じている。自分は何のための地域協議会委員になったのかというと、地域住民に活発に活動してほしいとの気持ちであり、少しでも役に立つことができればとの気持ちを非常に持っていた。しかし、いろいろなマイナス面ばかりを取り上げられると、何ともいえない惨めさがある。

そして、これほどの配分残額がありながら、追加募集を実施しないこととしてしまったことのほうが、自分にとっては余程重大なことに思える。そして、それは相当な批判を浴びるように思っている。

提案時は補助希望額が配分額を超過していた。しかし、多くの事業で大幅に減額をしたため、逆に 200 万円以上もの配分残額が生じる結果となった。減額となった提案団体の気持ちを思うと、営利等いろいろなこともあるかもしれないのだが、そればかりではないと思う。やはり地域協議会委員は応援する立場ではないかと思っている。

これまでは、そういったことがあまりなかったのだが、今は雰囲気が違う。何が違うのかというと、まず提案の足りないところを探している。そうでなく「一生懸命やっているため頑張ってもらいたい」といった気持ちで応援することが、自分は地域協議会委員の立場だと思う。地域を活性化するためにはそれが大事だと思う。

そして次年度のことを思うと、258 万円もの配分額を残してしまったことが、申し訳ない気持ちである。次年度はマイナスを作らないような地域協議会にしていかなければならないと思う。

自分はまだまだ世間をたくさん知っているわけではないが、年の功で、それはすごく感じる。皆でよい思いをしながら補助金を使ってもらえるようにしたい。子どもも大事、高齢者も大事、観光も大事、そのような地区にしていきたい。

#### 【本多委員】

基本的な自分の考えは先ほど発言したのだが、これまでの各委員の意見を聞いて、何人かの委員の意見に理解できる部分があった。

自分の場合、地域協議会委員であれば、支援事業に提案することを辞退する。そうでなければ、本当に自分たちが何のために集まって審査するのか分からない。やはりそれが「客観的に見る」ということだと思う。最低限、自分が地域協議会委員を務めている 4 年間は、自分で襟を正さなければだめだと思う。

いろいろな意見が出ているのだが、委員が自分から「この事業の審査・採点からは

外れたほうがよい」と申告すれば、このような問題は起きないと思う。そして、自分の関係する事業についてはもっと客観的に話をしなければ、いくら話をしていてもまとまらないと思う。

なお、採択となればまた、話を蒸し返すような発言が出る可能性はある。採決をすれば、必ず何かしらの少数意見は出ると思う。それは仕方がないことだと思う。

また、採決の方法の議論があったが、自分の考えだけで判断していれば、これだけの大人が集まっているため話がまとまらないと思う。決まらなければ、最終手段として採決する。それをまた蒸し返しては何も進まない。自分の1番言いたいことはそれである。

#### 【丸山委員】

今年度、初めて「岩木1丁目町内会」と「謙信流陣太鼓」の2つの提案があり、本当に嬉しかった。去年は春日野町内会等からの提案が多くうらやましく思った。

今年度の採択の際、減額の仮決定が続き、予算内に収まったため、残りの事業は減額しなくてよいと思っていたのだが、更に減額していったことに驚いた。何も分からずにこの場にいるのだが、各委員の意見を聞きながら、他の町内のよいところを自分の町内にも反映できるよう、努力したいと思う。

#### 【山田委員】

今ほどの丸山委員の発言にあったのだが、自分は地域活動支援事業への提案について、一生懸命に宣伝をした。何かないかと聞いた時に、岩木1丁目から2つの提案が出たため嬉しかった。できることであれば他の委員も声掛けをしてはどうか。各町内等よりたくさんの提案が出たほうが、自分は地域が活性化していくと思っている。

#### 【吉田 義昭委員】

今は提案のあった町内会の話を知っているわけではなく、提案団体に関する委員についての意見を聞いている。それについての意見を聞かせてほしい。

#### 【山田委員】

資料2-2の「3 申し合わせ事項」に、項目と今年度の方針が出ているのだが、自分は記載の内容でよいと思っている。

#### 【丸山委員】

自分も、提案団体の3役は除いて、皆で採択したほうがよいと思っている。

#### 【吉田 義昭委員】

前提として、地域協議会員というものは、地域に関心のある人が委員になることが理想ではないかと思っている。自分は今回、ある人から「地域協議会委員にならないか」と誘われて立候補した。他の委員も多分同様だと思う。ということは、皆、地域に関心があり、この地域をよくしたいということが出発点だと思う。そういったことに関心のある人は、例えば、町内会長や団体の人も入ると思う。

自分の基本的な考えとして、原則的に提案団体に関与している委員は、採点や採決には関与してはならないと考えている。ただし、そのような枠の中で、町内会長等は必ずどこかで接点が出てくると思う。そのため、妥協案として、制限の対象を提案団体の代表者である「会長」「副会長」「会計」で収めたとの認識でいた。

それでなければ、例えば町内会では班長も役員ということになるため、提案事業には関与できないことになる。例えば丸山委員や山田委員も、町内会に関与しているため、2つの提案事業を審査できないということになってしまう。どこかで妥協しなければならぬため、「3役」で収めた結果が今回の申し合わせ事項だと認識している。さらに踏み込んでいくといろいろな問題が出てきてしまうことになる。

議論して掘り下げた際の気持ちを皆で共通認識として持つことができれば、春日区の考え方はしっかりしたものだと思っている。自分はどこに出しても恥ずかしくはないと思っている。

#### 【鷺澤委員】

自分は地域協議会委員となり、今期で3期目である。これまでの地域協議会と比べると、特に今年度は審査方法等でいろいろな変化があったと思う。

例えば、審査・採択をする人の制約や、全団体がプレゼンテーションに参加する点が変更になった。さらに藤田委員より発言があったが、配分残額がある場合には、これまでは必ず追加募集を実施してきたのだが、今年度は実施しなかったことも大きな変化であった。そういった意味で、評価できる部分と、少し違うのではないかと思う部分の両方の意見がある。

だが、今年度は様々な議論をして、例えば、採択に参加できる範囲はどの程度かといったことも真剣に議論されていた。もし間違いがあるのであれば、今後、その点を集中的に議論して、違う方向で地域協議会としてやり方を決していけばよいのではないかと考えている。

詳細については、この後議論されていくと思うのだが、今年度は1歩進んでいるの

ではないかと考えている。

**【渡邊委員】**

資料 2-2 の「申し合わせ事項」に「代表者等（会長、副会長、会計）とあるのだが、提案団体に関係している委員も、その中に含め、審査・採点を行わないとの考えに傾いてきている。

**【渡部委員】**

藤田委員の発言は非常に素晴らしと思うのだが、自分は不公平感をなくすことが大事だと思っている。「できるだけ支援したい」との気持ちは大事だと思うのだが、不公平感があってはだめである。

ある意味で、考え方の目安のようなものがあればよいと思う。「減額」というと聞こえは悪いかもしれないのだが、「不公平感の是正」だと思えば、自分は今回は適切だと思っている。それよりも、多くの提案を出してもらうことがよいと思っている。

**【田中副会長】**

自分も、提案団体の会長・副会長・会計は採点や採決を行わないほうがよいと思うのだが、委員については対応がどうなるかと思うところがある。それはまた今後、各自が考える、または他の地区の様子を見る等して決めていけばよいと思う。

本日は決定する議題ではないため、各委員の意見を聞いたことに留めて、次の審議に入ったほうがよいかと思っている。

**【太田会長】**

地域協議会会長としてではなく、1人の地域協議会委員として発言する。

何人かに質問する。

最初に渡部委員に質問である。渡部委員は今回、交通安全協会春日支部の支部長ということで、当該事業の採点を辞退した。もしも、提案団体の代表者を審査から外すのではなく、「全員が採点」と地域協議会で決定した場合、自分が属している提案事業は採点で満点を付け、その他の事業は減点して採点をするか。

**【渡部委員】**

他の事業は別として、交通安全協会の提案については、提案書の段階で役員会で内容を揉んでいる。そのように内容を揉んでいる人物が採点に参加してはならない。

**【太田会長】**

そうではなく、点数を付ける場合を聞いている。

【渡部委員】

ほぼ満点を付ける。

【太田会長】

次に、齊藤委員に質問である。齊藤委員も春日商工振興会の会長を務めているため、提案に関わっていたと思う。自分の関係する事業の採点をする場合、該当事業には委員の立場として、満点採点をするか。

【齊藤委員】

自分の関係する事業については、他の委員に採点を任せたい。

【太田会長】

採点はしないということか。

【齊藤委員】

採点はしない。

【太田会長】

もしも、採点をする場合には、満点を付けるか。

【齊藤委員】

満点になるように考えて提案書を作成しているため、満点を付けると思う。一応、提案書を読み、内容に沿っていると思って自分の名前で提出している。

【太田会長】

人によっては、満点の5点から減点していく委員、3点から加点していく委員等、多分、各自の採点の仕方があると思う。そのため、採点のバラつきもあったかと思う。

では、齊藤委員も自分が関係する事業には満点を付けるということによいか。

【齊藤委員】

当然、満点を付けないところもある。

【渡部委員】

その聞き方では、自分が悪者のように思える。

【齊藤委員】

客観的に見ているのか、との質問だと思う。

【太田会長】

先ほど、齊藤委員は「客観的に」と発言し、渡部委員は「ひいき目で見ると、採点を辞退する」と発言した。



## 【渡部委員】

人間として、ひいき目で見ると、ということである。

## 【太田会長】

自分は地域協議会委員として、2人の委員の意見はどちらも正解だと思う。

やはり委員の立場としては、自分の関係する事業には補助希望額の満額がほしいため、採点で満点付ける。それもあると思う。

だが、地域協議会委員として、やはり公平の目で見なければならない部分もあるため、やはりそこは春日区の協議会委員として考えてほしいとも思う。

自分の個人的な意見としては、提案団体の代表者等を審査から外すのではなく、委員全員が参加するほうがよいと思っている。だが、自分以外の委員より「代表者は外したほうがよい」「関係している委員は外したほうがよい」といった意見も聞いているため、これについては、次年度の方向性を検討する際に、改めて検討したいと思っている。

先ほどの藤田委員より、「地域協議会委員は、応援する立場にならないといけない」との発言があった。「申し合わせ事項」の話からは外れるのだが、自分も、地域協議会委員は春日地域を応援する立場でなければならないと思っている。

今回の採点結果について、自分は提案者や地域の住民よりいろいろな声をいただいた。「春日区の地域協議会は偉いんだね」と一言言われた。減額することありきで、減額することを頑張っていると言われた。もう少し自分たちの活動を見てほしいと言われた。活動や内容を見て、理解した中で違うと思った部分を減額・減点するのであればよいが、今年度提案のあった24件の提案団体の活動を、どこまで理解してもらえているのかというふうに言われた。

提案のあった24件のうち、2事業が採択決定前に辞退しているため、実際には22事業であるが、実際には自分も22件の提案団体のすべてを把握できているわけではない。だが、少しずつでも活動を理解していかなければならない・応援していかなければならないと思っている。その中で、偏りがあった場合には、減額したほうがよいところがあれば、やはり減額はしなければならないと思う。だが、地域が春日区を少しでも元気にしたいと思い、活用できるものは活用させてほしいと考えて、提案書を作成している。多分、何日もかけて苦勞して作成している団体もあると思う。無駄を省かなければならないとの考えも1つなのかもしれないのだが、やはりいろいろな方向

で春日区をよくしたい、何か春日区の役に立ちたい、力になりたいとの思いで提案していると思う。

先ほどの藤田委員の発言にもあったように、自分としても、配分残額となった「253万8,000円」をもう少し春日区のために活用できる費用にしたかったと、地域協議会会長ではなく、個人の考えとして、反省しなければならないところかと思った。

別の団体の話であるが、上から下に話をするときに、上から押さえつける「トップダウン」ではなく、「トップ」が「ダウン」して、下の者に目線を合わせて話をするということがある。我々も、地域協議会の委員という立場ではなく、春日区の住民の目線になって、「困っていることないか」「もう少し応援できることはないか」といった目線でやっていかなければならないかと思った。

提案団体だけではなく、他にもいろいろな活動をしている団体があると思う。先ほど、岩木町内で「何かないか」といって今回2つの提案があり、すごくよかったとの話を聞いた。他の町内でも、地域協議会委員が「何か提案できることはないか」「せっかくだから、何か提案しよう」というかたちで、後押しができるようになっていけばよいかと思う。

#### 【田中副会長】

太田会長とは違う意見なのだが、今ほど、「地域協議会委員は偉いんだね」と言われ何も言えなかったとの話があった。

自分からすると、自分たちは本当に一生懸命に考えている。提案団体の目線で考えるとそう見えるのかもしれないが、それ以外で考えた時には、自分たちも一生懸命にやっていると思う。それに対し「地域協議会は偉いんだね」と言われたことをこの場で発言したことに嫌な気分がした。

同じ3役ではあるのが、個人的な意見は控えてほしかった。

#### 【太田会長】

そういう思いの人もいる、ということだけ知ってもらえればと思う。自分もそのように言われて「春日区地域協議会なりに考えて決定した」ということだけは話をした。

#### 【藤田委員】

一般的に見ると、「地域協議会委員」というだけで特別な人に見られる。それは、いつもそういった立場にいる人には分からない。そのため自分はなるべく、自分が地域協議会委員であることを伏せるというか、地域住民とどのようにして交わりを持てば

よいのかとの気持ちでつき合いをしている。そのくらい、気を使いながら地域協議会に参加している。

やはり、お金を左右できることは「偉い」ということだと思う。自分たちの考えである程度の、マイナスばかりではないのだが、その力を持っていることを、人は「偉いんだね」と思う。不採択にしようと思えば不採択にできる。そればかりではないのだが、ある程度は慎重になるべきだときだということ、自分は言いたい。

太田会長も非常に気を使っており、きっと嫌なこともたくさん耳に入っていると思う。自分は地域住民より、「やはり、おかしいと思うため事務局に電話をした」と言われた。きっと事務局は多く意見を受けていると思う。

なぜ自分はこの場所にいるのかと考えたときに、自分の立場をしっかりとしたい、間違いは起こさないようにとの気持ちで発言した。

#### 【太田会長】

赤字で記載されている「3 申し合わせ事項」の今年度の変更部分である。地域協議会委員が提案団体の関係者である場合の審査への関わり方について、今年度は「代表者等（会長・副会長・会計）である委員は、当該事業の採点・採決を行わない」としていた。

これまでの意見を聞いた中では、来年度に向けて、多少の見直しが必要との意見もあった。本日、決定するわけではないのだが、来年度の採択方針や方向性を決める時には、この部分をもう少し熟議し、皆が納得できる方向性を作り、進めていきたいと思う。その際には改めて意見を求めながら、20人の委員全員が納得できる結果になるのかは分からないが、過半数以上の委員が納得できるような方向性を作り、進めていきたいと思っている。

時間が押しているため、次の議題に入りたいと思う。

#### 【市川委員】

時間が押している中ではあるが、資料 2-1「令和 3 年度 地域活動支援事業応募の手引き」を見てほしい。

今ほどの意見とは違うのだが、1 ページ目の中央部分に「次のような事業は対象なりません」とあるのだが、理解ができない部分がある。

「①物品の購入のみを目的とした、活動を伴わない事業」とあり、「物品の購入」との一文が入っている。これはどういうことなのか。「物品の購入」となると、ユニフォ

ーム等、すべての物品に関わってくると思う。

これについて、これまでに疑問はでなかったのか。自分は以前より疑問に思っていた。

**【太田会長】**

「物品の購入のみ」は対象外ということである。例えば、ユニフォームを補助金で購入し、それを着用して試合に出るのであれば問題はない。

今年度、藤新田町内会より法被購入の提案があったが、コロナ禍で夏祭りが実施できないとのことで、申請が取り下げられた。このように、夏祭りをするために町内で揃った法被を購入したいといった、活動を伴った物品の購入は問題ない。

その他、今年度は大学南町内会からも、帽子等、町内でユニフォーム的なものも揃えたいとの提案があった。ただ物品を購入するだけが目的ではなく、何か活動をするために物品を購入したいという提案に関しては、活動のための物品購入であるため対象外とはならない。

**【市川委員】**

では、「物品の購入のみ」イコール「活動を伴わない事業」との理解でよいか。

**【太田会長】**

そうである。

**【市川委員】**

先日、「応募の手引き」を見た人から、物品の購入となると、どうなるのかと聞かれた。ほとんどの提案が「物品の購入」になるのではないかと質問を受けたのだが、自分は答えることができなかった。だが、今ほどの太田会長の説明で理解した。

次に、先ほど石田委員より話が出たが、毎年同じ団体より提案がされている。それはある程度予算化されていて、地域協議会より受ける補助金を団体の予算に組み入れて活動している団体もあるように思う。

たとえ自主財源が100円であっても、毎年、地域協議会から100万円の補助が受けられていれば、その100万円で活動していくことができる。そのように何年も続けて提案している団体があるわけである。どこかで歯止めをかけなければ、いつまで経っても「地域協議会の予算」イコール「自分の団体の予算」というふうになりかねないように思う。

毎年、野球のユニフォーム・グローブ・ボール、楽器等、他の地区では受付けてい

ないように思える提案が申請されている。自分は地域協議会委員になって2年目であるが、この2年間提案してきている団体や、それ以前を見ても同じ団体が同じようなことを提案して予算化している。しかも、それほど減額はされていない。本当に春日地区の活性化に繋がるのかどうか。

どこかで歯止めをかけなければ、いつまで経っても同じ団体が同じように提案してくる。そのような団体の審議を毎年、長い時間をかけて審査することも変な話である。

先ほど話が出たが、自分は減額すること自体は悪いことではないと思う。減額することも地域協議会の仕事である。補助希望額が配分額を超過していれば、全ての提案に満額を補助することはできないため、どこかで減額をしなければならなくなる。

先ほど藤田委員より、減額について話があったが、「他の団体でも減額している」と理解してもらうしか、仕方がないと思う。本日はなくてよいため、どこかで歯止めをかける方法を考える時間を設けて、審議したいと思っている。

#### 【太田会長】

先ほど、「申し合わせ事項」について、次年度に向けて考えなければならないとの話をしたのだが、そこで継続事業についても検討したいと思う。

地区によっては、例えば、継続している事業に対して「2年目は何%減」としている区もある。他の区の情報や状況等も見ながら、春日区としてのルールづくりも一緒に考えていけばよいかと思う。

時期を見て、事務局より問題提起されたところをまとめてもらいたいと思う。

次第3 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の審査の振り返り」については以上としてよいか。

(よしの声)

また何かあれば、事務局に伝えてほしいと思う。

意見のあった内容は次年度に向けて、改めて熟議しなければならないと思うため時間を作りたいと思う。

以上で次第3 議題「(1) 協議事項」の「① 地域活動支援事業の審査の振り返り」を終了する。

次に次第3 議題「(1) 協議事項」の「② 自主的審議について」に入る。

最初に「1) 前期委員による自主的審議について」、事務局より説明を求める。

#### 【藤井係長】

・資料 3-1・3-2 に基づき説明

**【太田会長】**

今ほど事務局より、前期 4 年間の自主的審議について、大まかなアウトラインではあるが説明があった。

3つの分科会に分かれて進めてきた中で、「安全・安心分科会」が除雪の関係で意見書を提出したため、少しは結果を残すことができた。今期の協議会では、ようやく地域活動支援事業の審査・採択が終了したため、少しずつ自主的審議を進めていきたいと思う。

春日区の中で困っている、気になっているところがあるためよくしたい、変えたいとの思いで地域協議会委員となった委員もいると思う。前期までは資料に記載しているような方向性で進めてきた。これも1つの方向性である。今期の委員の中には、自分を含めて5人の前期からの委員がいるが、多くは新しい委員であるため、新しい委員の考えや思いを聞きながら、新しい自主的審議のテーマを決めて進めていくことも1つだと思う。

本日出た意見を参考にしながら、自主的審議のテーマを検討していきたいと思う。新規委員より意見を求めたいと思う。この春日区の中で気になっているところ等、何かあれば発言願う。

**【石田委員】**

今ほどの太田会長の発言の中に自分の思いがあったのだが、自分は地域協議会に入って、なんだか地域活動支援事業ありきの会議なのかと思った。地域のため、地域の課題等について、あまり話し合いはないものなのかと思っていたが、今ほど太田会長よりヒントを受け自分の思いを発言したいと思う。

簡単にできるとは思わないのだが、上杉謙信はメディア等で、「日本に誇れる」とされている割には、春日山には休憩できる場所、観光バスが停まれるところ、食事ができるところ、お土産もない。こういったところを春日区地域協議会として大きく取り上げて市に要望してはどうか。

もう少し全国から観光客を呼び、楽しんで帰ってもらえるような、観光事業に力を入れるべきではないかと思っている。ハードは揃っているのだが、ソフトは何もない。

長野がよい例だと思う。長野県は、それほどハードがない割には、ソフトがしっかりしているため観光客が多く訪れている。新潟県はよい素材があるにも関わらず、活か

しきれていない。これは上越市だけではなく、新潟県全体の問題だと思う。

上杉謙信という名立たる武将がいるため、観光にもう少し力を入れるべきだと思う、上越にもおいしいお酒やお米等、いろいろある。そのため、観光に力を入れるべきだと思う。

#### 【吉田 義昭委員】

前期の地域協議会の審議の内容を、資料で見て説明を聞いたのだが、そこら辺の流れをもう少し詳しく教えてほしい。

資料 3-2 にまとめが記載されているのだが、結果的に PDCA が回っていたのか、どのようなフローになっているのかがよく見えない。

資料の下部に、次期協議会が引き継ぐようなことが記載されているが、本日初めて聞いているわけである。このような進め方でやるということで、前期の流れを書面で見て、今、話を聞いているということが実態である。もう少し前に流れについて説明して、かたちを直してもらわなければ、どのように審議すればよいのか分からない。

前期からいる委員はよいが、新規委員は今から 4 年前にこういう流れが作られて、我々が委員になる 1 月前に、この結果が発表されているわけである。そうであれば、もう少しそこら辺を説明してもらわないと、いろいろな審議が進まないのではないかと感じる。

#### 【太田会長】

資料 3-2 について、「4. まとめ」を見ると分かるように、「福祉分科会」「観光分科会」については、思いはあったのだが、なかなか結果が残せなかった。「安全・安心分科会」に関しては、危険箇所の洗い出し、除雪の関係について町内会から話を聞く、小中学校から情報収集等をしながら現地視察も行い、春日山 2 丁目の除雪についての意見書を市に提出し、結果を残すことができた。また、福祉分科会については、春日区内に何かしらの「団体を作りたい」との話までは出たのだが、町内会や他の団体等と話をし、すぐに具体化することは難しかった。

このように、資料 3-2 の「4. まとめ」に記載されていることが、前期の 4 年間で進めることができた内容である。だがこれは、前期での自主的審議の話である。これを 1 つとして引き継いで進めていくことも 1 つの考えだと思う。

また先ほど石田委員が発言した観光については、前期の観光分科会での内容も含まれてくると思うのだが、分科会で審議していくのか、または全体で考えるのか、そし

て、4年で方向性を作るのか、または1年や2年でまとめて市に意見書を提出するのかということになるかと思う。

また、春日区の中で活動している団体を探して、後押しをしながら春日山が盛り上がるような方向性を作っていく等、いろいろなかたちが作れるかと思う。

前期の地域協議会で行ってきた「分科会」のかたちは、1つの参考としてほしい。資料に記載されている内容以外で、他に問題や問題視して考えなければならないところがあれば発言してほしい。

まだ春日山や春日区について、知らないところもあると思う。そのため、まずは全体でこの春日区を知ることもよいと思う。各町内会長にアンケートを取り、現地を見てほしいということであれば、出向いてもよいと思う。テーマを決める前に、1年目は現地を見ることも1つかと思う。

まだ本日はテーマを確定するのではなく、気になっていること等あれば発言を求めたいと思う。このような感じで進めていきたいと思っている。

#### 【渡部委員】

参考資料1に「町内会長との意見交換」と記載されているが、実際に町内会長連絡協議会と意見交換をした実績はあるのか。

#### 【藤井係長】

町内会長連絡協議会との意見交換会について、これまでは年に1回程度開催している。毎年行っているわけではないが、直近では一昨年度に行っている。

#### 【渡部委員】

自分が町内会長を務めていた時には、1回だけ開催されたことがある。町内とのコンタクトはまったくない。

町内会長から意見を聞くことが、大事だと思う。各町内では、いろいろな問題を抱えていると思う。そういったことを直接聞くこともよいと思う。また、地域活動支援事業は簡単に手続きができるといったことも伝えてはどうか。どうしても、皆、構えてしまっており、プレゼンテーションに参加すると、一気に質問される等のイメージを持っている。そのため、少なくとも町内会長に説明する機会を設けたほうがよいと思う。

そういったところから解決していかなければ、この地域協議会を理解している団体だけのものになってしまう。



### 【藤井係長】

前期の地域協議会では、4年の任期の間に3回の意見交換会を開催したと思う。今年度最初の地域協議会でお示しした大まかな年間スケジュールの中でも、秋ごろに調整がつけば、自主的審議の議題・テーマ決定に向けた情報収集として、町内会長との情報交換ができればよいと提案している。今後の進め方によっては、機会が持てればよいと思っている。

事務局としては、地域の課題等に関する意見を引き出したい、町内会長に地域協議会についてより知ってもらいたいと思っているため、意見交換の場面が作れるとよいと思っている。

### 【渡部委員】

個人的な希望である。

自分は交通安全協会の役員を務めているのだが、これも町内会長連絡協議会からの延長である。地域活動支援事業に「見守り隊」等、いろいろな提案が出されているが、これらは町内会長連絡協議会に属する活動である。町内会長連絡協議会の中には、防犯協会もある。また町内会長連絡協議会とは少し違うのだが、青少年育成会議もある。

こういった団体にどんどん話を持っていければ、もっとアイデアは出てくると思う。

現在、春日地区内には防災士会がない。防災士はいるのだが、まったく日の目を見ていない。そういった団体から広げていければ、春日区の底上げになるかと思う。

そのため、町内会長連絡協議会との意見交換の時期を早めて実施してほしいと思っている。

### 【藤井係長】

提案求める地域活動支援事業や諮問案件の審査と違い、自主的審議は地域協議会委員の課題意識に基づき、対策を何とかかたちにしていこうとの取組である。

いろいろな意見を聞き、進め方についても提案をいただきながら進めていきたいと思っている。

### 【太田会長】

昨年度も町内会長連絡協議会と意見交換したいとの話は出ていた。だがコロナ禍ということもあり、多くの人数が集まったの意見交換は難しいということで、昨年度については見送った経緯がある。

今年度についてはコロナ禍も落ち着いてきているため、町内会長連絡協議会に提案

し、進めていきたいと思っている。

他に意見等あるか。

#### 【吉田 実副会長】

自主的審議について、2 期目のときに、資料に記載されている 3 つの柱が大体詰まってきたが、地域活動支援事業の審査等で時間を取られてしまった。

次の 3 期目で実際に検討することができた。例えば、安全・安心分科会では自分がリーダーを務めていた。また、谷委員は福祉分科会のリーダーであった。そのため、もう少し具体的な話をすることは可能である。

安全・安心分科会では、実際に意見書まで提出しており、パワーポイントにまとめた資料もある。目で見えて分かる資料もあるのだが、今回は事務局が説明するとのことであったため、資料は用意していない。もし要望があれば、具体的な細かい説明もすることができる。場合によっては、次回の協議会で予定することもできる。

#### 【吉田 義昭委員】

今回の配布資料で、地域活動支援事業の審査・採択ばかりが仕事ではなく、自主的審議という仕事もあるということが分かった。これまでの審議のいきさつのようなものを説明する機会を、ぜひ次回の協議会の中で設けてほしいと思う。

それから、地域活動支援事業については、各世帯に地域協議会だよりも配布されており、審査・採択の中身は分かっている。これは理解してもらおうための取組なので、もう少し補足して、減額したのはこういう理由で、こういう考えで、公平性を持って審査していることが分かるように PR しなければならない。

さらに、その結果を見て、提案してみようという団体が出てきて、本当の活性化になると感じている。

ルール作りは今 2 年目になるのだが、勉強させてもらっていると思っている。知識は回を重ねるごとに付いてくるため、皆成長していくことを期待している。

#### 【太田会長】

今年度の地域活動支援事業の審査・採択が終了したため、今後は自主的審議に頭を切り換えて進めていきたい。

先ほど、前期までの地域協議会ではどのような内容を審議していたのかという話をした。前期に続いて地域協議会委員を務めている委員の中には、前期の自主的審議の分科会リーダーを務めていた委員もいるため、参考にしたいとの意見があれば、次回

の協議会の中で時間を設けたいと思う。

本日は、自主的審議はこういうものであるといった説明に留め、次回の協議会にて今後の課題について審議したいと思う。

**【谷委員】**

以前、もう少し春日区を知ることがを目的として、地域協議会委員で地域を回ってはどうかと提案した。地域活動支援事業の審査・採択等があり話は止まっていたのだが、審査も終了して落ち着いたと思う。その後、予定や計画としてはどうなっているのか。

**【太田会長】**

具体的に「いつ」「どこへ」「どんな内容」ということではないのだが、やはり地域協議会委員も春日区を知らなければならないと思っている。委員間でも情報交換をしながら、そういったことも必要だとなれば実施する方向で進めていければよい。

**【谷委員】**

地域活動支援事業の審査が落ち着いた後で実施するとしていたと思うため、町内会長との意見交換等も大事だとは思っているのだが、具体的に次の方向を検討してほしいと思っている。

**【吉田 実副会長】**

研修について補足である。1期目の地域協議会では、研修はほとんどなかった。2期目については、春日山に登る、長野県の城の復元をしたところへの視察、すこやかサロンの見学等、活発な研修を行っていた。3期目については、春日山に登ったのみであった。

今期の地域協議会では、各委員の希望等も確認しながら進めていきたいと思う。次回の協議会の中で確認をしながら、予定を組んでいきたいと思う。予算の関係もあるため、限られた内容になるかもしれないのだが、せめて春日山に皆で登り、春日山城跡について認識を共通のものにしてもらいたいと思っている。

**【市川委員】**

先ほど渡部委員より発言があったのだが、春日区内には、自分を含め防災士の免許を所持している人がかなりいる。上越の防災士会が各支部を作るよう動いているのだが、残念ながら春日区には支部ができていないのが現状である。

こうした中、町内会長と懇談会を実施したことは非常によいことだと思う。

ただ春日山に関しては、春日区だけの問題ではないと思う。金谷区の上正善寺、下

正善寺、滝寺等、いろいろな地域が絡んでくる。そのためもし審議を行うのであれば、春日区だけではないほうが、よりよい成果が出ると思う。

先日、春日山の草刈りに行ってきた。県外からの観光客や子ども連れの人が非常に多かった。春日山はだんだんと“髭だらけの上杉謙信”からイメージが変わってきていると思う。

集客はあるのだが、残念ながら山の観光整備が全くなっていないことが現状である。地域協議会でそういったところに力を入れることができれば、ベターになるかと思う。それも春日地区だけでなく、金谷地区等関係するところと一緒に力を入れていったほうがよいと思った。

#### 【太田会長】

春日区だけでできない部分もあると思うため、他の関係するところと協力をしながら、できる部分があれば進めていきたいと思う。

#### 【鷺澤委員】

現在、市議会の総務常任委員会でも地域協議会や地域自治区のあり方について、市民を巻き込んで検討されている。そして出された市民の意見のまとめが総務常任委員会から出ている。こういった情報の入手、そして自分は市民団体でまちづくりの研究会をしているのだが、企画政策部長や創造行政研究所副所長を招いて、上越市の将来構造、あるいは地域振興の課題について、行政の担当者の情報を元に勉強会をした。

その中で、昨年行われた国勢調査での変化をまとめたものを企画政策部よりもらったのだが、春日区は非常に変化していた。非常に人口が増加しており、単なる新しいまちづくりではなく、地域のコミュニティをどのように確立していくのかという問題、少子高齢化の問題等、様々な問題が出てきている。

そういった情報を事務局で必要であれば入手し、それを踏まえて、地域協議会でもっと重要な事項である自主的審議、つまり春日区をそのようなまちにしていくのか、検討していく必要があると思う。ぜひ必要な情報については、必要だと思う資料を提案するため事務局より委員に配布してほしい。

先日配布された春日区地域協議会だよりに記載されていたのだが、春日区は他の27区と違ってものすごく変化がある。そういったことを踏まえ、自分たちは地域のまちづくりのために何をしたらよいのかを考えてほしいと思っている。

#### 【太田会長】

参考資料として配布したほうがよいと思うもの等あれば、事務局で対応したいと思う。

#### 【丸山委員】

防災士の話が出て思い出したことがある。岩木町内の各班長・副班長を知りたいと思い、各世帯に名簿を配布してもらえないかと町内会長に提案したところ、個人情報であるため現在は配布していないと言われた。

だが自分の実家がある五智3丁目では毎年、全世帯の名簿が配布されており、防災士は誰といったことが分かって、防災の組織が非常にしっかりしている。岩木地区も今後はそのようにしていくのだと思うのだが、名簿については各町内でどのように扱っているのかを知りたいと思った。

自分の町内では名簿を配布していないのだが、各班長・副班長程度は把握していたと思った。

#### 【渡部委員】

先ほど市川委員より防災士の話が出たのだが、市に防災士会というものがあり、毎年会費が徴収されている。そして、春日区には代表理事が2人いるのだが、春日のみ支部を作ることを嫌がっている。

だが、支部を作ることがよいか否かは別の問題である。1・2年前までは毎年、正善寺川の水が上がり、避難所を開設したとのアナウンスが流れていた。先日、聞いてみたところ、避難所に避難した人はほとんどいないとの話であった。正善寺川が整備されているのか否かもよく分からない。

自主的審議として、地域協議会に大きなことを託しているように感じるのだが、あまり大きなことをテーマとしても、何も進まないと思う。小さなテーマでもよいため具体的な内容を扱い、現在の春日区の体制を動かさなければだめだと思う。そういったところに、地域協議会の事業等が重なるとよいと考えている。

#### 【太田会長】

参考資料2の他の区の内容を見ると、区によって異なっている。単年度で終わるような課題で課題解決している区もあれば、大きな課題を数年かけて行っている区もある。他の区の活動も参考にしながら、今ほどの渡部委員の発言にあったように、大きなものではなく、単年度で解決できるようなテーマとすることも1つの方法かと思う。

#### 【渡部委員】

現在は解決しているのだが、春日山荘の問題がある。最初はほとんどの活動を高田の趣味の家に移すように言われた。だが春日山荘を利用している40ほどの団体のほとんどは、「春日山荘だから」「近いから」そこで活動しているとのことであった。現在はほとんどが解決し、市民いきいの家に行くようになった。それはそれでよいのだが、こういったことを地域協議会に諮ってはどうかと提案したところ、3年程前に諮ったことがあるとのことであった。

先ほど発言したように、あまり大きく「将来の福祉を論じる」としても、自分たちだけで考えることは難しい。そのため、もっと小さなところで考えたほうがよいと思う。

地域協議会ではできないため、防犯協会を検討に引き入れるとか、あるいは交通安全協会と関わってもよいが、そういったことも一つの進め方だと思う。

#### 【吉田 実副会長】

春日山荘については、春日区地域協議会が目光らせている話である。社会福祉協議会は春日山荘を廃止したいと思っている。だが、春日山荘の趣味の講座の役割は、以前、春日保育園の隣にあった市の「趣味の家」の代わりとして、春日山荘に趣味の講座をすべて移して面倒を見てほしいということで、市が社会福祉協議会に趣味の講座を委託している。社会福祉協議会は春日山荘を廃止して、他のところへ移転させようとしているのだが、春日区の住民は、春日山荘が近くて便利であるため受講している。例えば、石橋等に移動されては、足がない住民は行くことができない。

そういったことも考慮して、本当に春日山荘の今後のあるべき姿について、地域協議会が目光らせていなければならない。動きがあるのであれば、地域協議会としてどうあるべきか、しっかりと意見しなければならない。

社会福祉協議会は市の機関ではなく、市が趣味の講座等を委託しているため、言いたいことがあれば市に言わなければならない。この問題については、各自が独自で情報収集し、この場で協議していきたい。

#### 【太田会長】

いろいろな情報がある中で、必要であれば、担当者を地域協議会に呼んで話を聞く。意見交換をするところがあれば、対応したいと思う。同じ春日区の貴重な施設であるため、情報を共有していくことも必要かと思う。

#### 【鷺澤委員】

春日山荘については、地域協議会として、何か動き等があった際には必ず地域協議会に連絡してほしいとしている。そのため、変更・廃止等の話が出た際には必ず、春日区地域協議会に話があると思う。その時には積極的に意見していきたいと思う。

**【太田会長】**

前期の地域協議会では、廃止したいとの話があったため、担当者より出向いてもらって説明を受けた。その際に、春日区には利用者が多いため、残してほしいと要望している。

**【渡部委員】**

自分は春日山荘で行われていた講座に参加しているのだが、40ほどある団体の交渉団体的なものに選ばれている。

最初は「高田で続けてほしい」と言われ、参加者で大反対した。現在は、石橋の市民いこいの家に、ほとんどの団体が行けるようになったため、とりあえずは1件落着かかと思っている。

こういったことは多分、諮問事項か何かで、すべて決めてから説明にくると思う。そうすると、すでにほとんどが決まってしまうため、まずいと思っている。

ついでの話になるが、いこいの家は3月いっぱいでお風呂をやめる。お風呂だったところは改造して、陶芸で使用するとの話である。

自分としては、今の方針が適切かと思っている。

**【太田会長】**

春日山荘については、市や上越市社会福祉協議会等に状況を確認し、何かあれば地域協議会に情報提供したいと思う。

次回より自主的審議について、もう少し掘り下げて進めていきたいと思っている。

以上で次第3 議題「(1) 協議事項」の「② 自主的審議について」を終了する。

次に次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求める。

**【藤井係長】**

- ・ 次回の協議会について説明

**【太田会長】**

— 日程調整 —

- ・ 次回の地域協議会：8月31日（火）午後6時30分から 市民プラザ会議室（予定）
- ・ 内容：自主的審議について、今年度の審査の振り返り

その他、何かあるか。

**【藤井係長】**

- ・上越市役所の庁舎再編に伴い、事務局が元ガス水道局（第2庁舎）3階へ移動することを報告

**【太田会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。